

2017年10月11日（水）

参加者：親子19組（子ども24人） スタッフ：3人 保育士：2人
担当：院生7名
内容：作って遊ぼう

- ① 13:40 ～ お名前呼び(タンパリンを使って)
- ② 13:50 ～ からだを動かそう
- ③ 14:10 ～ 自由遊び
- ④ 14:40 ～ お帰りの手遊び(さよならあんころもち)とスタンフ



お名前呼び（写真1）



タンパリンを叩いて元気にハイ！（写真2）



マラカスを飾ろう！（写真3）



シールがたくさんあるよ！（写真4）



できたよ！（写真5）



いい音がするね！（写真6）



完成！（写真7）

大学院生によるプログラム「からだを動かそう」を行いました。後期からが初参加の親子も含まれているため、まだお名前呼びに慣れていない子もいます。名前を呼ばれて元気にタンパリンを叩く子、母親と一緒にタンパリンを叩く子、子どもにより反応は違いますが、みんな返事をするこ一つに対しても一生懸命です。うまくタンパリンを叩けた後は満足そうな笑顔で母親の顔を見上げ、母親たちも子どもたちからの視線に笑顔で応える様子が多く見られました。

プログラムは「からだで遊ぼう」ですが、院生たちは子どもたちの動きを誘う小道具としてマラカスを準備していました。白い紙コップを利用した無地のマラカスを配り、そこに子どもたちがシールをたくさん貼って完成させました。紙コップは柔らかいため力の入れ方の調整がうまくいかずに握りつぶしてしまう幼い子もいましたが(写真5)、それでも嬉しそうに手に持ち振り続ける様子はとても愛らしいものでした。

「♪金づちトントン」という歌に合わせたお遊戯には、腕を大きく振る動きが繰り返し入っています。子どもたちは、自分で作ったマラカスを金づちに見立ててトントンと振りながら楽しそうに音を鳴らしていました。

3歳を超える子たちは、音が鳴る範囲で腕を動かしていましたが、1歳くらいの子もたちは、肩から腕全体を大きく振り動かしてぎこちなく音を鳴らしており、その様子が愛らしく見守る母親たちは目を細めていました。